

2013 年 11 月 28 日

報道機関各位

調査レポート

グラフで見る関西経済(2013 年 11 月)

【今月の景気判断】

関西経済は緩やかに持ち直している。生産は、足下では在庫率が上昇し、昨年 11 月を底に続いてきた緩やかな持ち直しが一服してきたが、輸出は、電気機器、化学など近畿地区での比重が高い品目で増加が続いており、持ち直しの動きがみられる。また、完全失業率、有効求人倍率など雇用環境も緩やかに持ち直しており、賃金は緩やかに減少しているものの、個人消費は緩やかに持ち直している。設備投資は、実績の数字をみると減少しているが、先行きについては増加が見込まれる。住宅投資は、金利先高感、来年の消費税率アップの影響から緩やかな増加傾向にある。公共投資は、平成 24 年度補正予算による事業もあって増加している。関西経済の先行きは、海外経済が緩やかに回復する中で、持ち直しが見込まれる。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	↗		↗	輸出	→		↗
個人消費	↗		↗	輸入	↗		↗
住宅投資	↗		↗	生産	→		↗
設備投資	↘		↗	雇用	↗		↗
公共投資	↗		↗	賃金	↘		→

(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

2. シャド一部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～中国などアジア経済の回復の動きと同地域向け輸出の動向、米国の財政金融政策の動向
- ・企業活動～電気機械、情報通信機械、電子部品・デバイスなど電気製品関連の生産動向、企業の収益と設備投資の動向
- ・政策～成長戦略の行方と量的・質的金融緩和の効果
- ・家計～消費税率引き上げ前の前倒し消費の動向、減少が続く賃金の行方

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る関西経済」の見方】参照

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 主任研究員 塚田裕昭

〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2

TEL: 03-6733-1070

同時配布先：大阪商工会議所内経済記者クラブ、大阪日銀クラブ

【各項目のヘッドライン】

項目	10月のコメント	11月のコメント	ページ
1. 景気全般	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	3～4
2. 生産	緩やかに持ち直している	持ち直しが一服している	5～6
3. 雇用	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	7～8
4. 賃金	緩やかに減少している	緩やかに減少している	8～9
5. 個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	9～11
6. 住宅投資	緩やかな増加傾向にある	緩やかな増加傾向にある	11
7. 設備投資	減少している	減少している	12～13
8. 公共投資	増加している	増加している	13
9. 輸出入	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい	輸出、輸入ともに持ち直しの動き	14
10. 物価	消費者物価は緩やかに上昇	消費者物価は緩やかに上昇	15
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金は増加、貸出は減少	15
12. 倒産	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに減少	16

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目（11. 金融、12. 倒産を除く）

（*）参考資料：「グラフでみる景気予報」 → <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】
2. 生産

9月の近畿地区の鉱工業生産は前月比－2.9%と3ヶ月ぶりに減少する一方で、在庫水準が高まっている。

9. 輸出入

9月の近畿地区の実質輸入は前月比＋5.0%と2ヶ月ぶりに増加した。

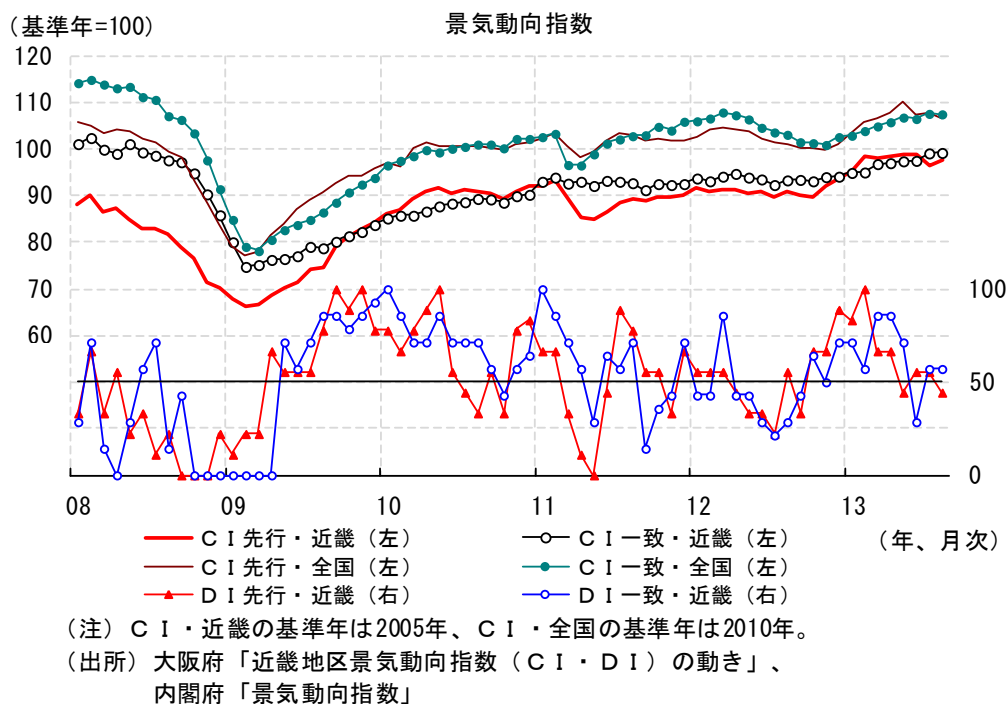
1. 【主要経済指標の推移】

経済指標		12 7-9	12 10-12	13 1-3	13 4-6	13 7-9	13 5	13 6	13 7	13 8	13 9	13 10
景気全般	景気動向指数（近畿）C I 先行指数（05年=100）	104.3	104.1	101.9	100.7	98.6	98.9	98.7	96.7	97.6		
	C I 一致指数（ " ）	97.2	97.5	98.5	99.8	100.2	97.5	97.6	99.2	99.3		
	D I 先行指数（%ポイント）	37.0	74.1	83.3	55.6		44.4	55.6	55.6	44.4		
	D I 一致指数（ " ）	31.0	61.9	71.4	61.9		71.4	28.6	57.1	57.1		
	景気ウォッチャー調査（近畿）現状判断D I（ " ）	44.5	44.7	57.1	57.7	53.1	58.7	54.9	53.2	51.4	54.6	52.8
	先行判断D I（ " ）	44.5	48.1	60.6	57.1	53.7	58.1	53.5	52.9	52.3	55.9	57.7
	日銀短観（近畿）業況判断D I 製造業（%ポイント）	-9	-15	-15	-8	-4	<12月予想>					
	非製造業（ " ）	-9	-12	-9	-3	-1	<12月予想>					
	法人企業統計（近畿）経常利益 製造業（兆円）	0.2	0.6	0.5	0.8							
	非製造業（兆円）	0.3	0.3	0.3	0.6							
生産	鉱工業生産（近畿）（季節調整済、前期比・前月比）	-2.7	-1.1	2.0	1.0	-1.0	0.5	-1.7	0.6	0.7	-2.9	
	鉱工業出荷（近畿）（ " ）	-3.2	-0.2	1.8	0.7	-1.0	-0.2	-1.4	0.6	0.0	-1.8	
	鉱工業在庫（近畿）（ " ）	-0.4	-2.3	-1.9	0.9	3.3	-0.9	-0.1	3.4	0.3	0.4	
	鉱工業生産（近畿）鉄鋼（ " ）	-2.2	-6.1	10.4	0.1	-0.8	0.1	-10.5	6.8	-0.3	1.0	
	金属製品（ " ）	-2.9	4.3	-9.0	6.7	2.3	0.0	1.1	0.5	2.6	-2.2	
	一般機械（ " ）	5.0	-6.8	4.5	-6.4	5.6	10.6	-1.9	-1.5	13.5	-10.1	
	輸送機械（ " ）	-9.3	-10.4	10.7	5.4	-5.1	-5.4	-3.8	1.7	-0.5	-6.5	
	電気機械（ " ）	-0.7	-3.0	5.1	1.5	1.9	11.7	-5.1	0.8	-0.3	3.8	
	化学（ " ）	-4.0	-0.5	3.3	-1.9	0.9	-1.7	2.9	4.2	-7.2	1.1	
	大口販売電力量（関西）	-5.8	-6.2	-5.5	-4.3	-1.1	-3.9	-3.8	0.8	-1.5	-2.8	1.9
雇用	完全失業率（近畿）（%）	4.8	4.7	5.0	4.3	4.1	4.4	4.1	3.8	4.4	4.1	
	就業者数（近畿）（万人）	979	989	973	991	989	996	987	994	984	990	
	雇用者数（近畿）建設業（前年差、万人）	2	0	4	-4	1						
	製造業（ " ）	2	8	-4	0	8						
	運輸業、郵便業（ " ）	2	-1	-1	2	-1						
	卸売業、小売業（ " ）	-7	7	-2	6	12						
	医療、福祉（ " ）	9	10	15	3	4						
	サービス業（医療、福祉以外）（ " ）	8	-2	-12	1	-14						
	有効求人倍率（近畿）（季節調整値、倍）	0.76	0.77	0.85	0.90	0.95	0.86	0.88	0.89	0.90	0.89	
	新規求人倍率（近畿）（ " ）	1.24	1.26	1.35	1.44	1.47	1.37	1.46	1.41	1.41	1.42	
賃金	現金給与総額（近畿）	0.0	-2.1	-1.0	-1.4		-0.9	-2.5	-2.5	-0.5		
	所定内給与（近畿）	-1.2	-1.5	-1.1	-0.8		-0.8	-1.2	-1.2	-0.7		
	所定外給与（近畿）	-0.8	-5.3	-5.7	-3.3		-3.6	-4.6	-4.6	1.7		
	勤労者世帯（含む農家）の名目収入（近畿）勤め先収入	-6.5	-3.4	-0.9	7.5	17.3	7.6	9.2	23.2	16.9	10.4	
	定期収入	-1.7	-2.4	-2.2	2.2	8.1	3.7	5.2	9.9	8.0	6.3	
個人消費	勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出（近畿）	1.9	-1.1	3.1	7.0	5.3	9.3	8.1	-3.7	10.6	10.5	
	大型小売店販売状況（近畿）百貨店＋スーパー	-2.4	0.4	-0.5	0.8	-0.2	-0.4	4.7	-1.6	0.0	1.3	
	コンビニエンス・ストア販売状況（近畿）	-1.8	-1.7	-1.7	-0.6	-0.8	-0.8	1.2	0.0	-1.4	-1.0	
	家電販売額（近畿）	-17.3	-8.9	-7.0	1.6	-5.6	-0.5	12.6	-13.8	4.6	-4.8	
	新車登録台数（近畿）	14.8	-4.3	-10.3	-4.9	0.8	-6.3	-10.6	-10.0	-0.5	14.0	
	消費者態度指数（近畿、一般世帯）（原数値）（※）	39.7	38.9	42.9	44.8	44.0	46.0	44.5	43.3	43.4	45.2	43.3
住宅投資	新設住宅着工戸数（近畿）（季節調整済年率換算、千戸）	127.1	129.5	130.2	150.1	147.3	171.2	144.6	147.5	126.4	168.1	
	（前年比、%）	-4.2	2.3	0.0	5.9	15.3	30.6	12.6	14.7	-1.2	35.2	
設備投資	法人企業統計季報（近畿）設備投資 製造業	-11.3	-10.6	-28.7	-26.5							
	非製造業	0.2	-0.9	6.1	7.2							
公共投資	企業立地件数（近畿）（件）	—	—	—	—	—	21	21	14			
	公共工事請負額（近畿）	8.5	30.3	-8.3	10.1	37.1	16.0	17.8	37.2	20.8	51.4	12.2
輸出入	実質輸出（近畿）（季節調整済、10年=100）	99.3	97.6	93.0	97.2	96.7	97.0	100.1	94.5	99.4	96.1	
	通関輸出（大阪税関）輸出総額	-7.2	-3.7	-0.2	7.6	10.4	11.1	7.9	10.6	15.7	5.3	14.3
	実質輸入（近畿）（季節調整済、10年=100）	117.7	114.6	111.1	111.4	115.1	111.5	113.6	115.6	112.1	117.7	
	通関輸入（大阪税関）輸入総額	-0.3	1.0	6.6	8.5	15.7	8.3	7.2	19.9	11.4	15.8	23.7
物価	消費者物価指数（近畿）生鮮食品を除く総合	-0.1	-0.3	-0.6	0.0	0.7	0.1	0.4	0.6	0.7	0.7	
	食料及びエネルギーを除く総合	-0.5	-0.6	-0.9	-0.4	-0.2	-0.4	-0.2	-0.2	-0.3	-0.1	
金融	国内銀行預金残高（近畿）	1.2	1.4	2.3	2.8	2.3	2.9	3.1	2.2	2.6	2.1	
	国内銀行貸出金残高（近畿）	0.6	1.0	1.0	0.7	0.3	0.8	0.6	0.4	0.4	-0.1	
倒産	倒産件数（近畿）	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	-7.0	-19.1	-24.0	-17.4	16.1	-5.2

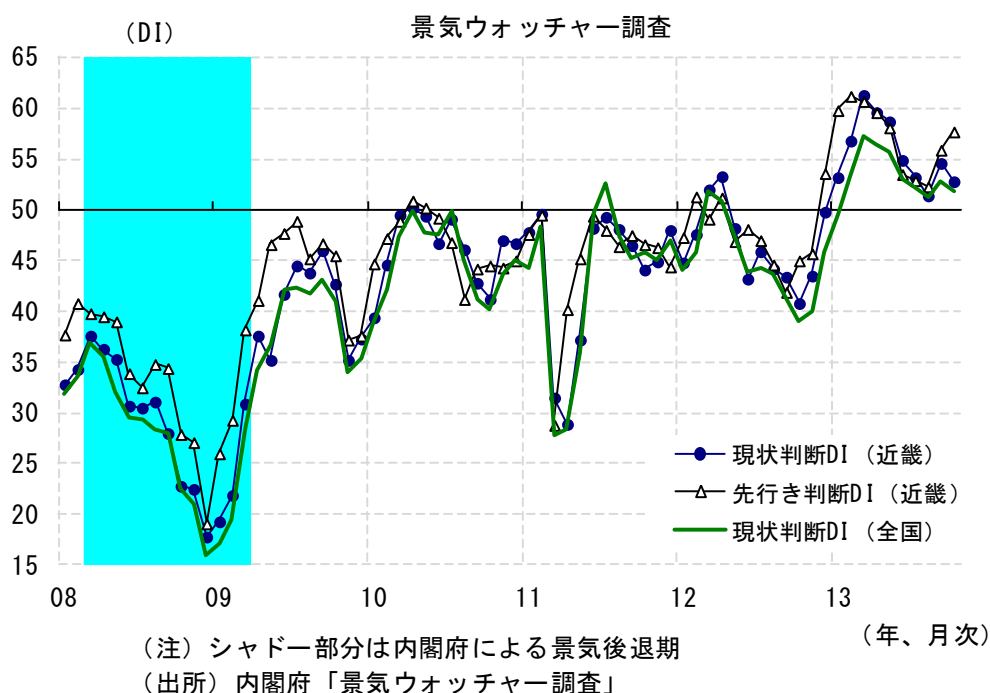
（注）括弧書きのない場合は、単位は前年比、%
消費者態度指数は、13年3月までは訪問留置調査、4月以降は郵送調査の値。

1. 景気全般 ～緩やかに持ち直している

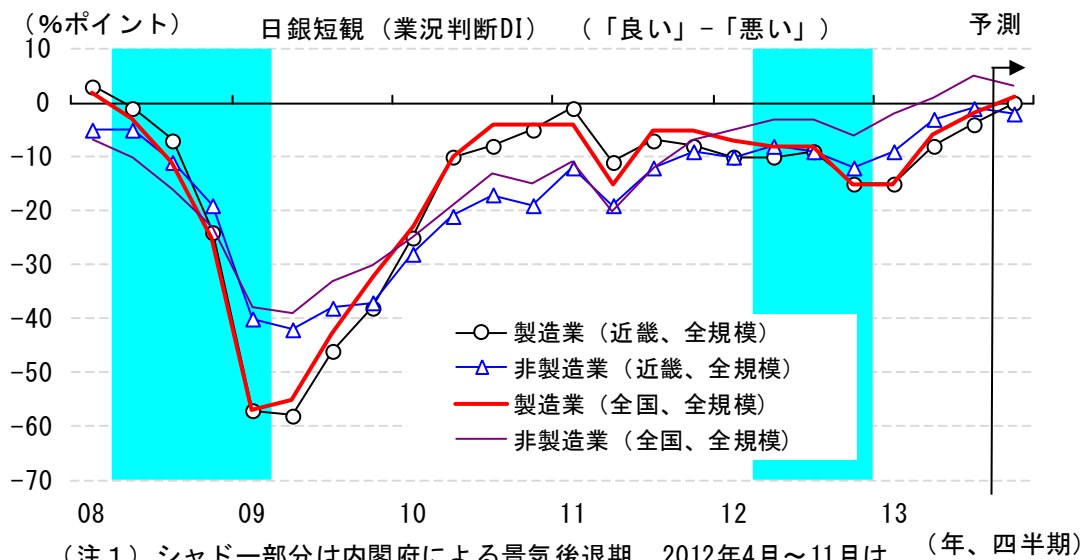
○8月の近畿地区の景気動向指数・C I一致指数は99.3と10ヶ月連続で上昇した。採用7系列のうち、輸入通関額、商工業用ガス消費量を除く5系列がプラスに寄与した。一方、8月のC I先行指数は97.6と3ヶ月ぶりに上昇した。採用9系列のうち、新規求人数、住宅着工戸数、倒産件数、中小企業業況DIを除く5系列がプラスに寄与した。



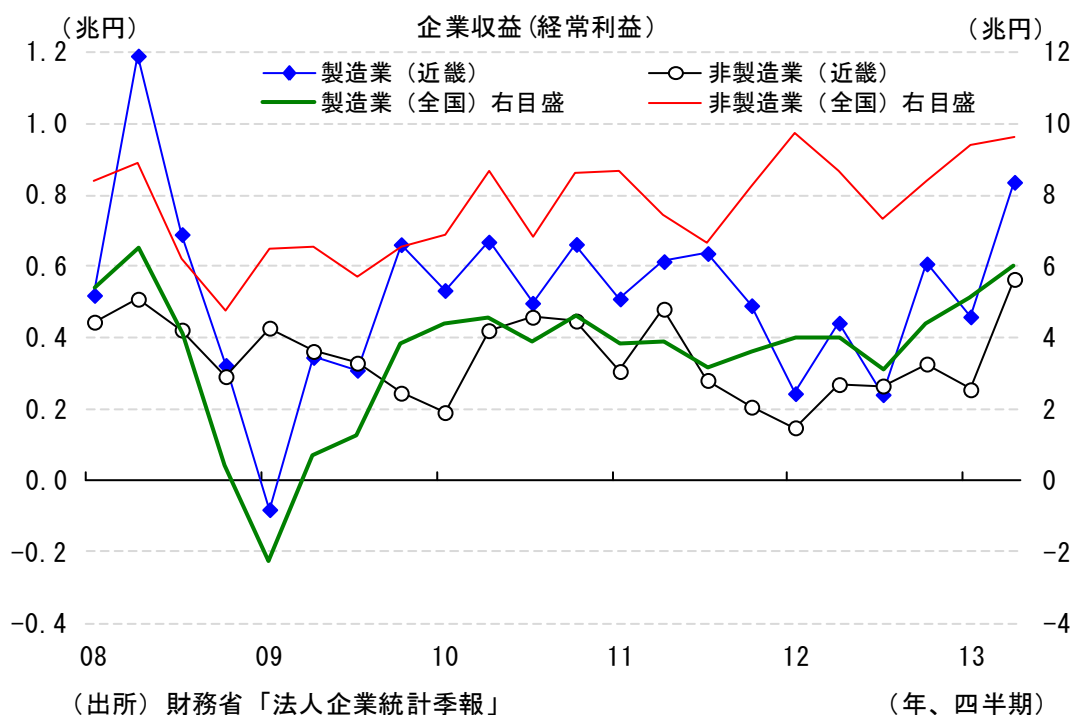
○景気ウォッチャー調査によると、10月の近畿地区の現状判断D Iは前月差-1.8ポイントの52.8と2ヶ月ぶりに低下したが、景気の横ばいを示す50を上回った。家計動向関連D Iは、同-2.6ポイントの50.4と2ヶ月ぶりに低下した。先行き判断D Iについては、同+1.8ポイントの57.7と2ヶ月連続で上昇した。家計動向関連の先行きは、同+2.8ポイントの56.9と2ヶ月連続で上昇した。



○日銀短観9月調査によると、近畿地区の業況判断D I（「良い」－「悪い」）は全産業（全規模）で－2と6月調査比で4ポイント改善した。製造業（全規模）は－4と4ポイント改善し、規模別では大企業、中小企業、業種別では電気機械などで改善した。非製造業（全規模）は－1と2ポイント改善した。先行きについては、非製造業、中堅企業、中小企業で若干の悪化が見込まれている。

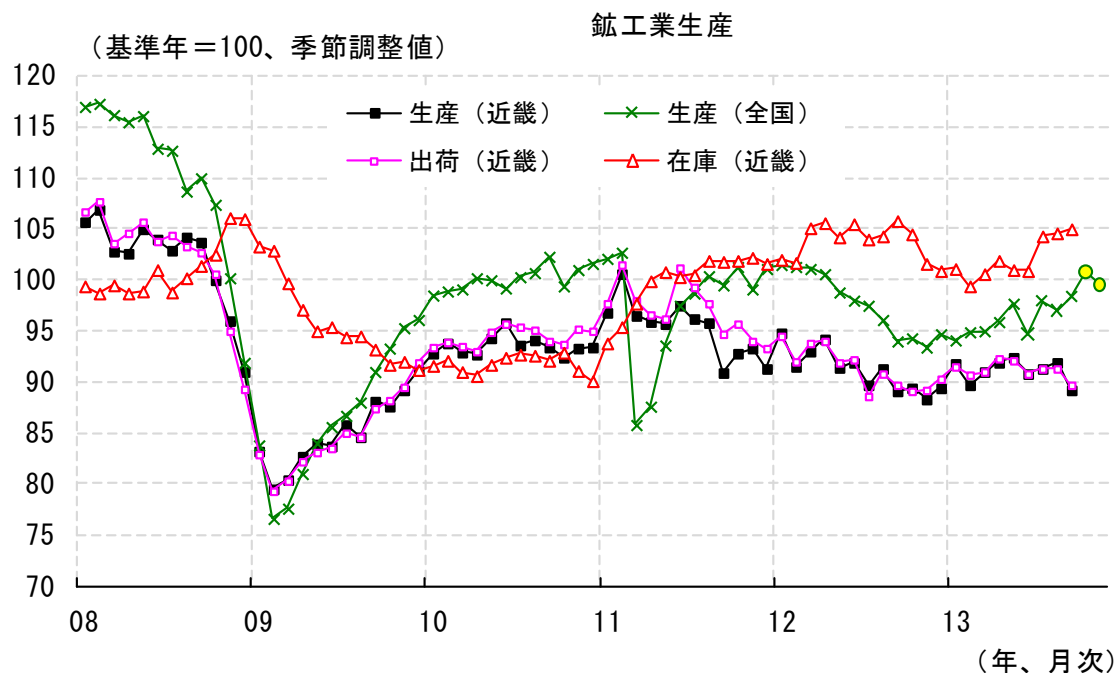


○2013年4～6月期の近畿地区の大企業の経常利益（全産業）は、前年比＋97.0％と大幅に増加した。業種別にみると製造業は同＋89.4％、非製造業では同＋109.5％となった。前年比での大きな振幅は一部大手企業の決算動向が影響しているものと考えられる。日銀短観でみると、今後の経常利益は12年度の大幅減（全産業・全規模で同－10.7％）から13年度は大幅増（同＋30.5％）が見込まれている。



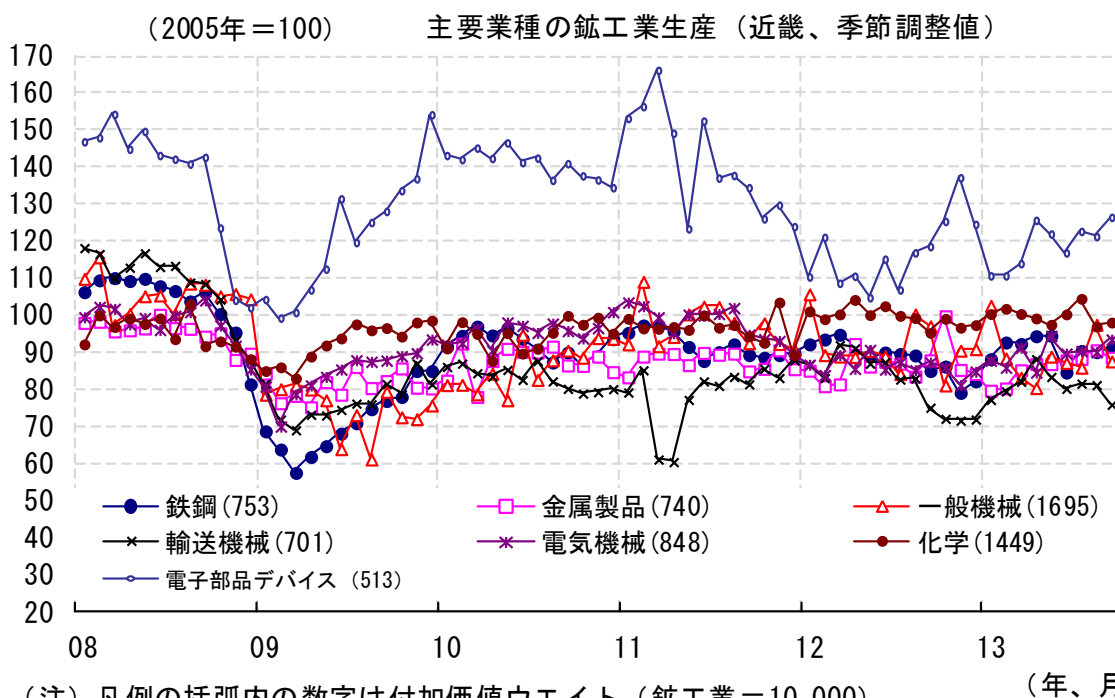
2. 生産 ～持ち直しが一服している

○9月の近畿地区の鉱工業生産は前月比-2.9%と3ヶ月ぶりに減少した。電気機械、電子部品・デバイスなどが増加したが、一般機械、輸送機械などが減少した。関西の生産は昨年11月を底に緩やかに持ち直してきたが、9月は昨年末レベルまで落ち込んだ。今後の生産は、世界経済の緩やかな回復が続く中で、緩やかな持ち直しを見込むが、在庫率の上昇など懸念材料も見受けられる。



(注) 生産（全国）の「○」は製造工業生産予測調査結果から試算した予測
全国の基準年は2010年、近畿の基準年は2005年

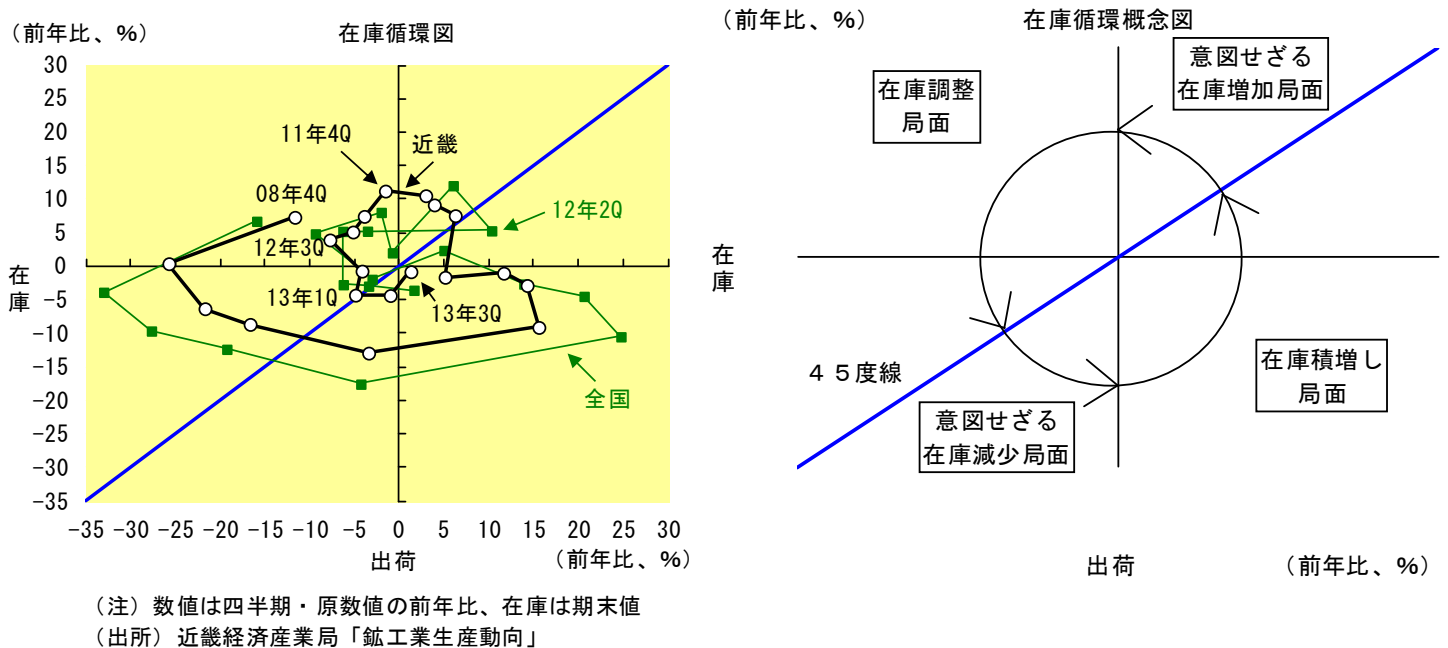
(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」



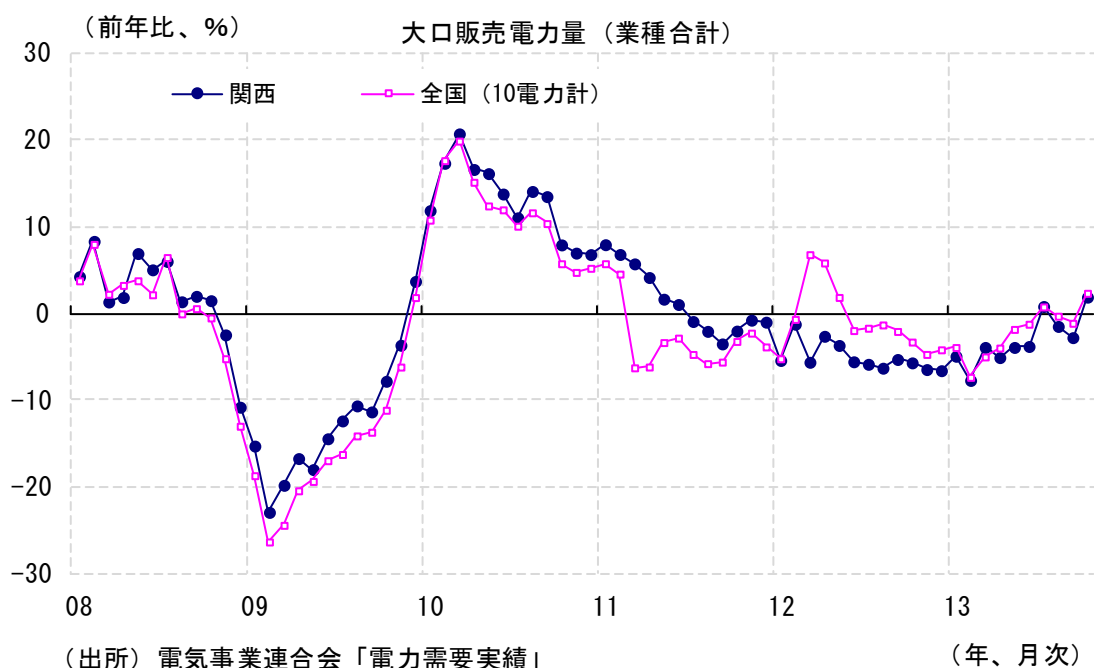
(注) 凡例の括弧内の数字は付加価値ウェイト（鉱工業=10,000）

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

○9月の近畿地区の鉱工業出荷は前月比-1.8%と3ヶ月ぶりに減少した。電子部品・デバイス、石油・石炭製品、情報通信機械などが増加したが、一般機械、化学、輸送機械などが減少した。鉱工業在庫は、前月比+0.4%と3ヶ月連続で増加した。電子部品・デバイス、非鉄金属、窯業・土石などが減少したが、電気機械、一般機械、プラスチック製品などが増加した。

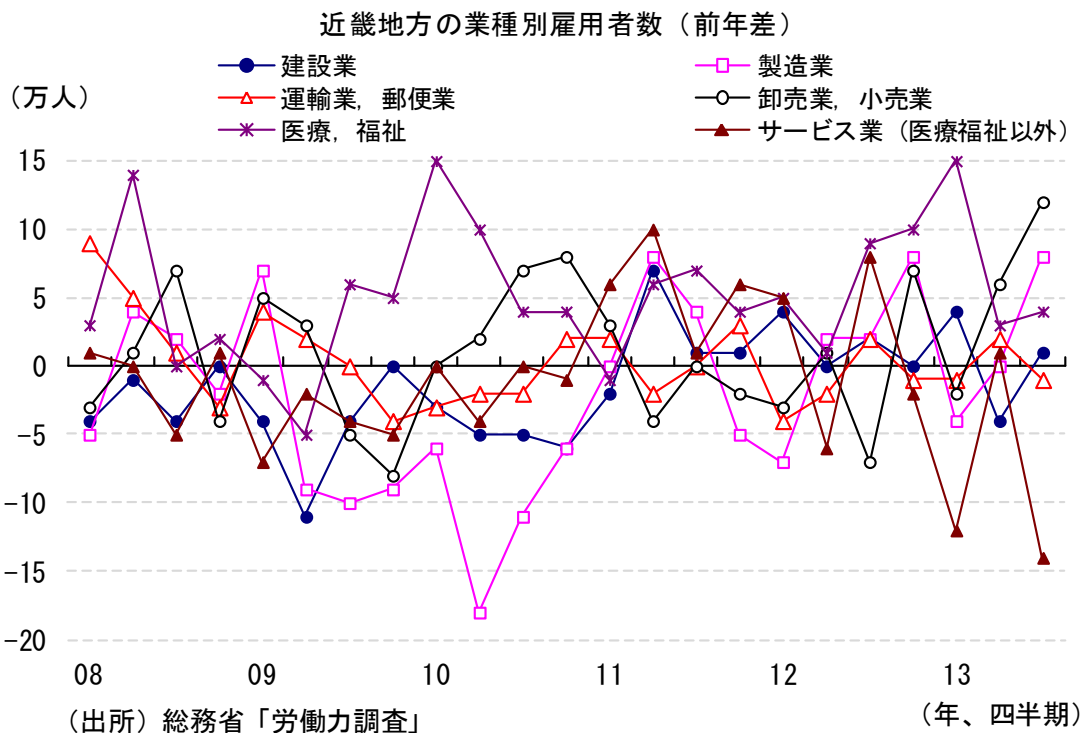
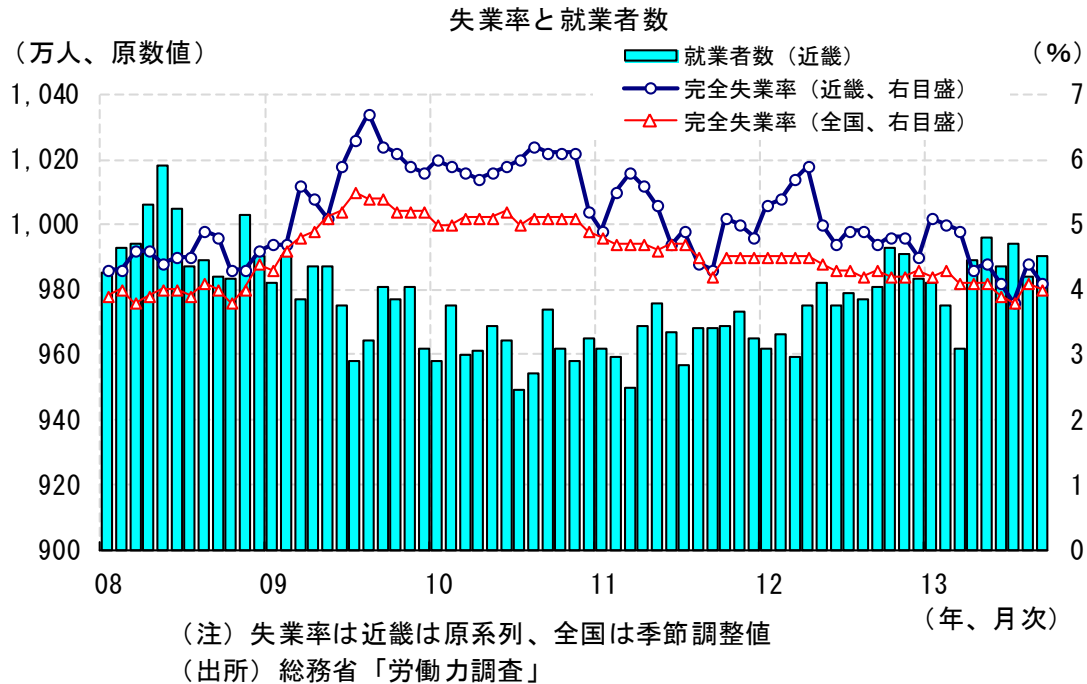


○10月の関西電力の大口販売電力量（契約電力500kw以上の産業用需要）は、前年比+1.9%と3ヶ月ぶりに前年実績を上回った。業種別にみると、製造業では主要11業種中、窯業・土石、非鉄金属、機械製造を除く8業種で前年実績を上回った。また、非製造業では、水道業は前年比で減少したが、鉄道業、その他で前年を上回った。

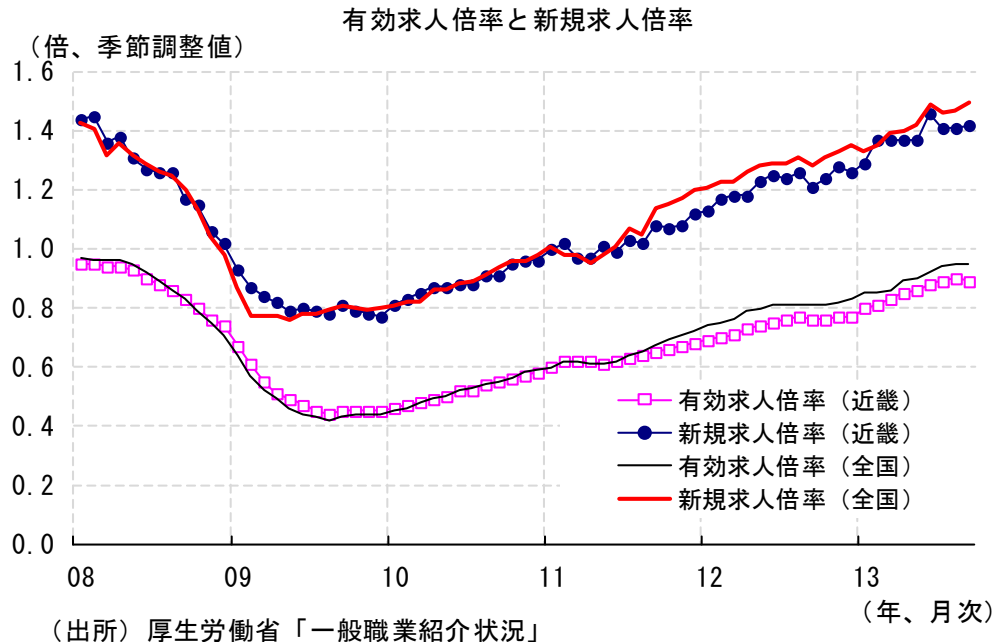


3. 雇用 ～緩やかに持ち直している

○9月の近畿の完全失業率は4.1%と前年差0.6%ポイント低下した。雇用者数は前年差12万人の増加、就業者数は同9万人の増加となり、完全失業者数は同6万人減少した。業種別(2013年7～9月期)に雇用者をみると、サービス業（医療福祉以外）が減少している一方で、製造業、卸小売業、医療・福祉、などが増加した。雇用情勢は緩やかに持ち直しており、今後も持ち直しが続くと思込まれる。

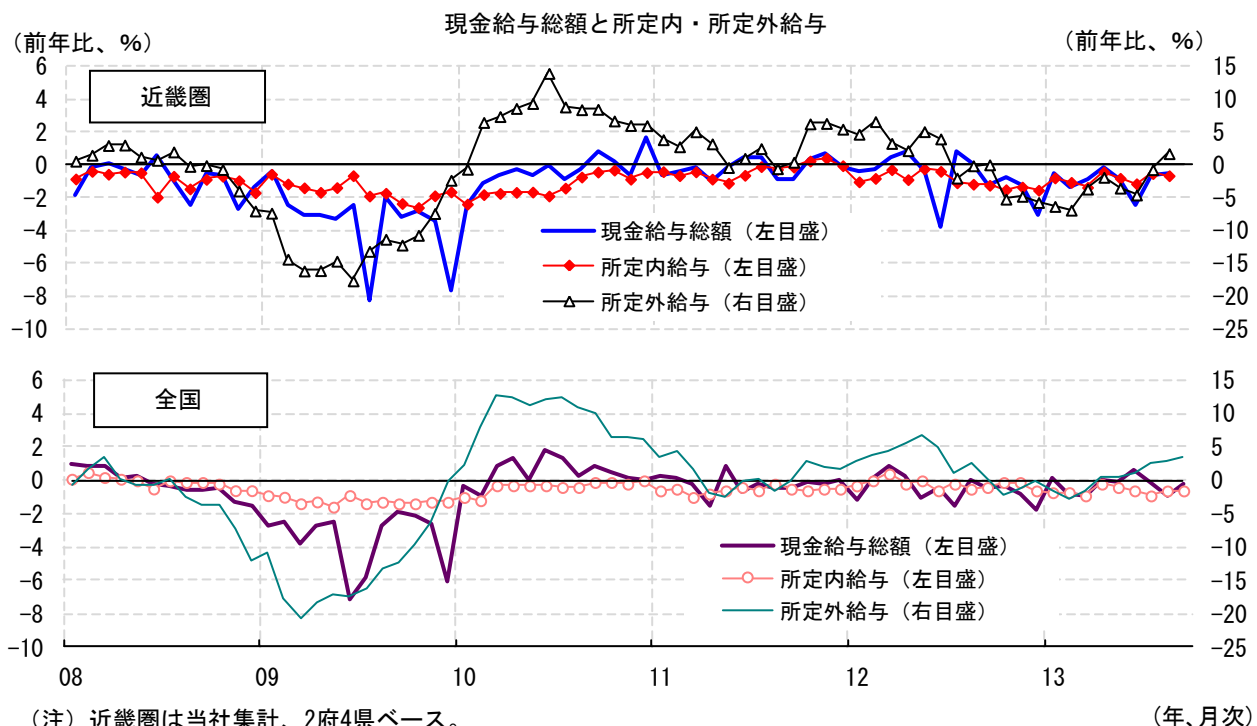


○9月の近畿圏の求人動向は、有効求人数が前月比+0.3%と2ヶ月連続で増加、有効求職者数が同+0.8%と10ヶ月ぶりに増加し、有効求人倍率は0.89倍（前月差-0.01ポイント）と小幅低下した。有効求人倍率に先行する新規求人倍率は1.42倍と前月から小幅上昇した。新規求職申込件数が前月比+2.3%と2ヶ月ぶりに増加し、新規求人数が同+2.7%と3ヶ月ぶりに増加した。

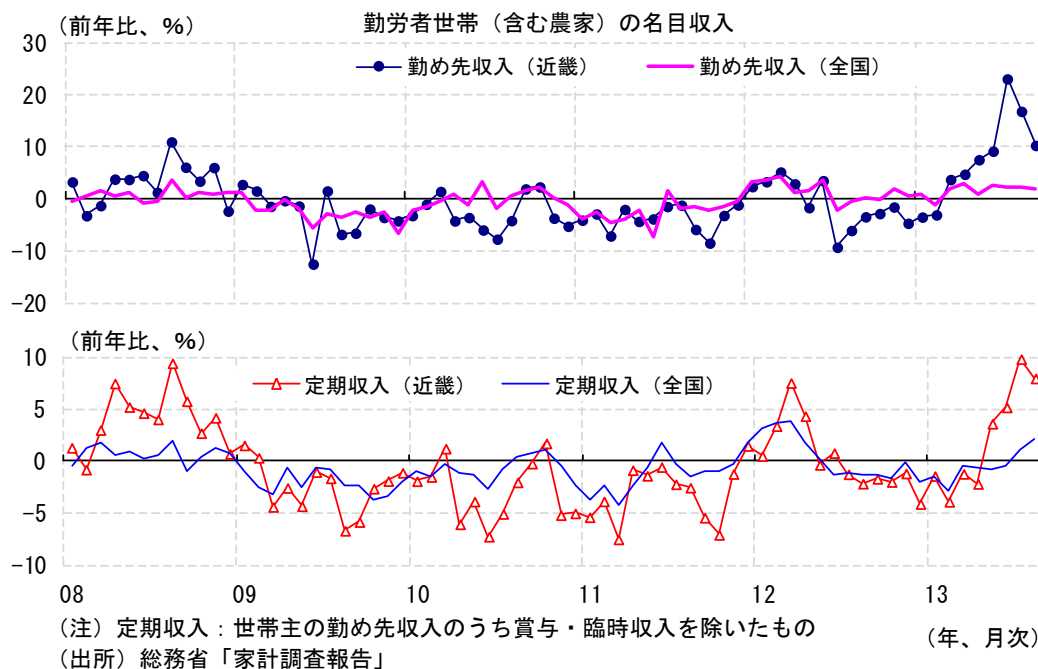


4. 賃金 ～緩やかに減少している

○8月の近畿圏の現金給与総額は、前年比-0.5%の26.7万円と12ヶ月連続で減少した。所定外給与は同+1.7%と14ヵ月ぶりに増加したが、定期給与は同-0.5%と15ヶ月連続で減少した。近畿圏の賃金は緩やかに減少している。今後も企業の人件費抑制姿勢が続くため賃金は緩やかな減少が見込まれるものの、雇用の緩やかな持ち直しを背景に徐々に下げ止まってこよう。

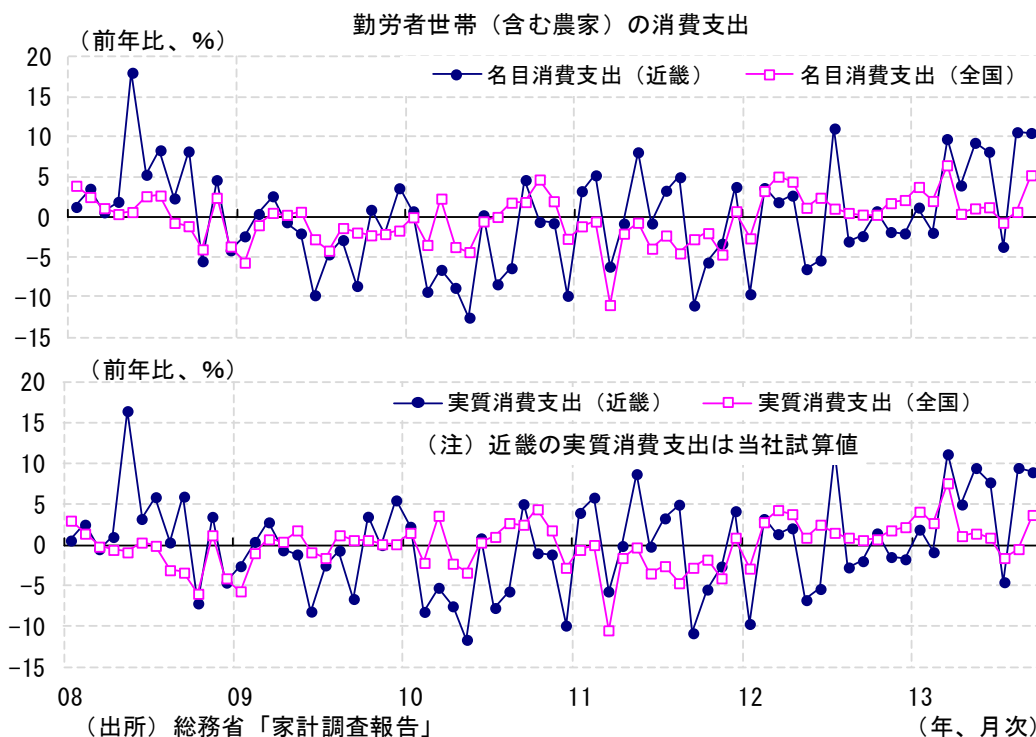


○家計調査によると、9月の近畿圏の勤労者世帯（含む農家）の勤め先収入は前年比+10.4%の41.6万円と、7ヶ月連続で増加した。内訳をみると、世帯主収入が同+7.6%の36.3万円と7ヶ月連続で増加、賞与・臨時収入を除いた世帯主の定期収入が同+6.3%の35.4万円と5ヶ月連続で増加した。

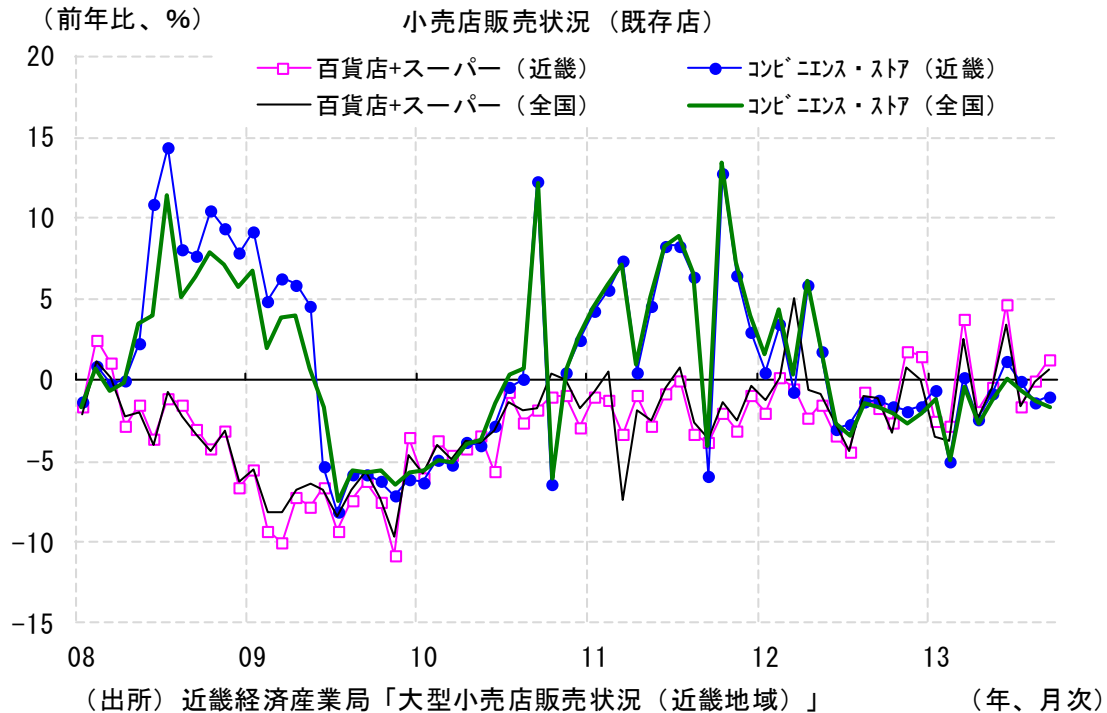


5. 個人消費 ～緩やかに持ち直している

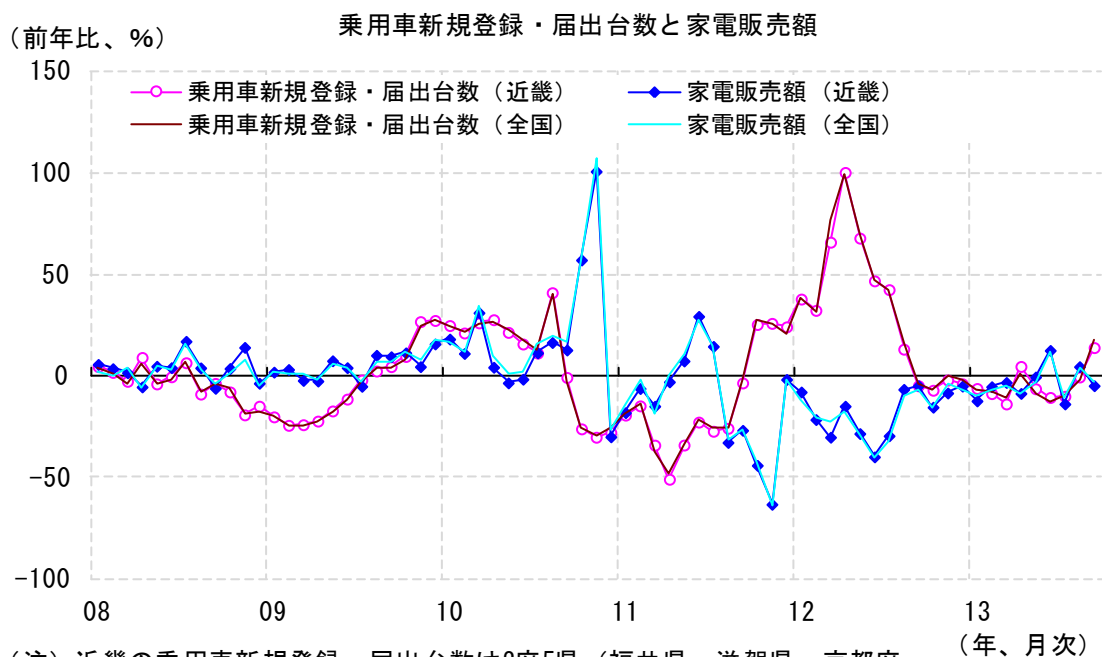
○家計調査によると、9月の近畿圏の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は前年比+10.5%と2ヶ月連続で増加した。個人消費の動向を示す各種指標は、均して見れば緩やかに持ち直している。所得の減少が続いているものの、雇用環境が緩やかに持ち直す中、個人消費は緩やかな持ち直しが続くと思われる。



○9月の近畿地区の大型小売店（百貨店＋スーパー）の販売額は、既存店ベースで前年比＋1.3％と3ヶ月ぶりの増加、全店ベースで同＋2.6％と2ヶ月連続の増加となった。百貨店は既存店、全店共に増加、スーパーは既存店では減少したが、全店では増加した。一方、コンビニエンス・ストアの販売額は既存店ベースで同－1.0％と3ヶ月連続で減少、全店ベースで同＋3.9％と7ヵ月連続で増加した。

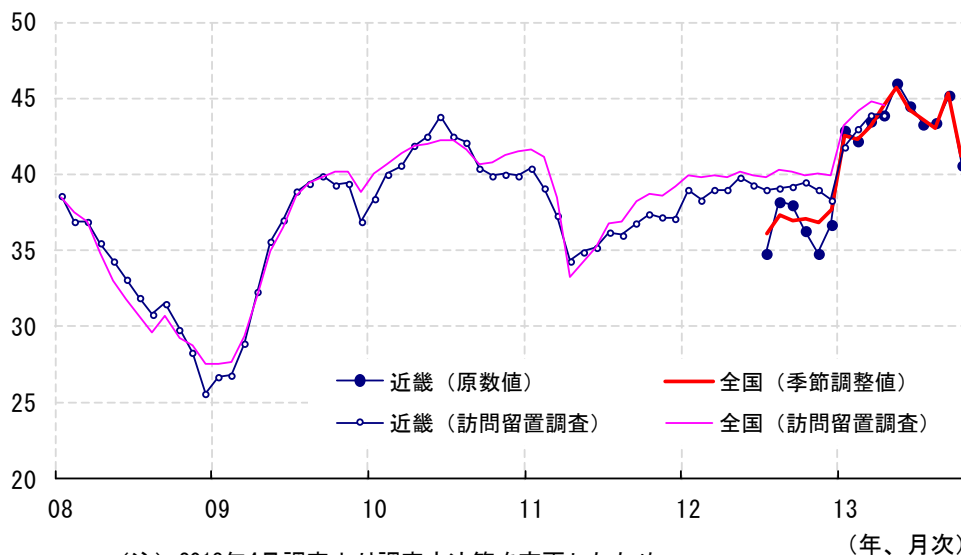


○9月の近畿地区の自動車販売台数は前年比＋14.0％と5ヶ月ぶりに増加した。昨年9月のエコカー補助金打ち切り以降、減少基調で推移してきたが、この影響が一巡した。また、新車投入効果も増加に寄与した。9月の近畿地区の家電販売は、前年比－4.8％と2ヶ月ぶりに減少した。デジタルカメラ、空気清浄機などが増加したものの、テレビ、ビデオカメラ、エアコンなどが減少した。



○消費者マインドを表す指標である消費者態度指数（近畿、一般世帯、原数値）は、10月は前月差－4.6%ポイントの40.6と3ヶ月ぶりに低下した。昨年に比べれば高い水準にあるが、今年に入ってから最低となった。安倍政権発足後のマインドの改善がかなり剥落したが、今後は、景気が緩やかに持ち直していることもあり、株価の動向にも左右されながらも比較的高い水準での推移が見込まれる。

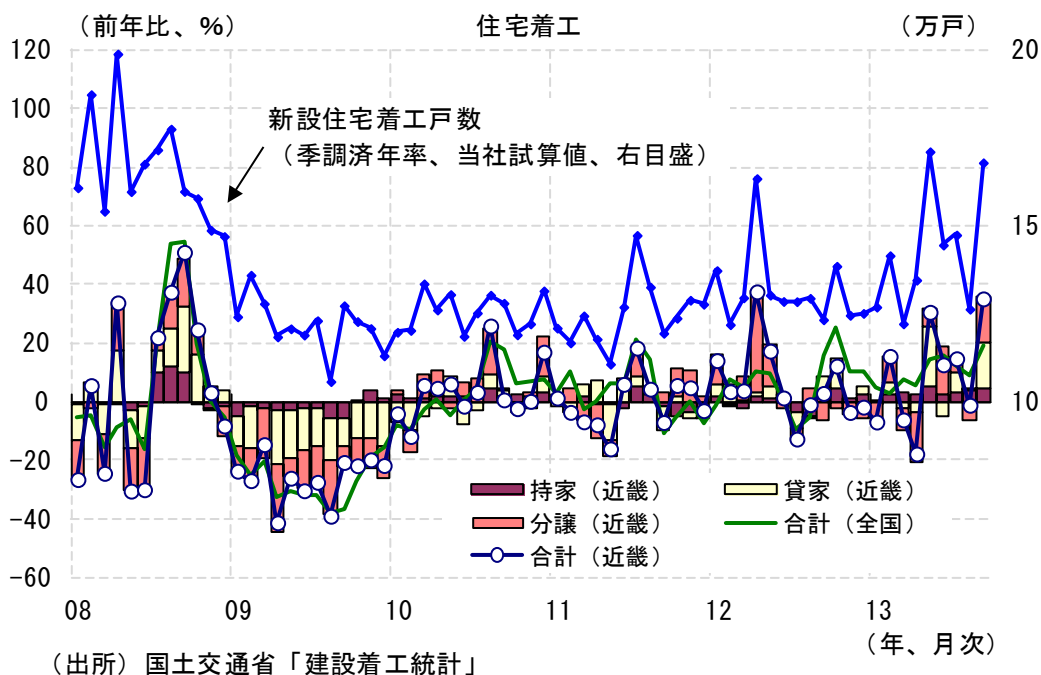
消費者態度指数（一般世帯、原数値）



(注) 2013年4月調査より調査方法等を変更したため、それ以前の訪問留置調査の数値と不連続が生じている。
郵送調査の2012年7月～2013年3月は試験調査による参考値。
(出所) 内閣府「消費動向調査」

6. 住宅投資 ～緩やかな増加傾向にある

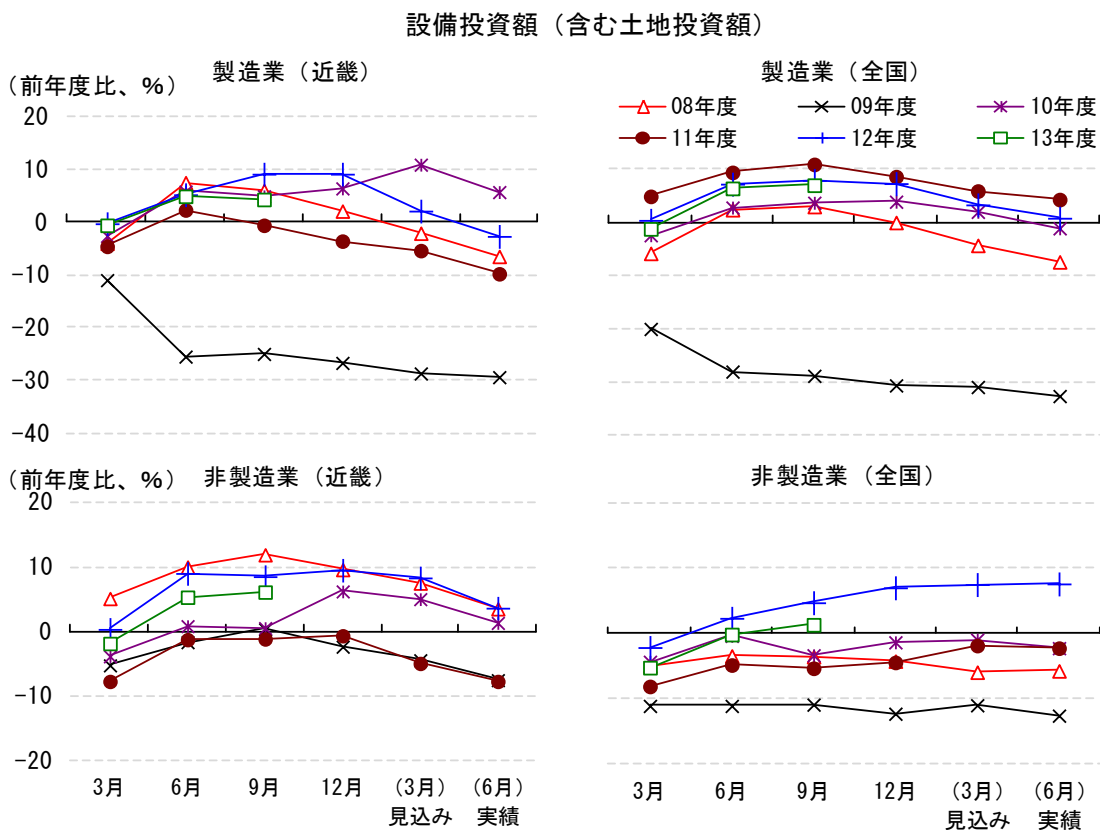
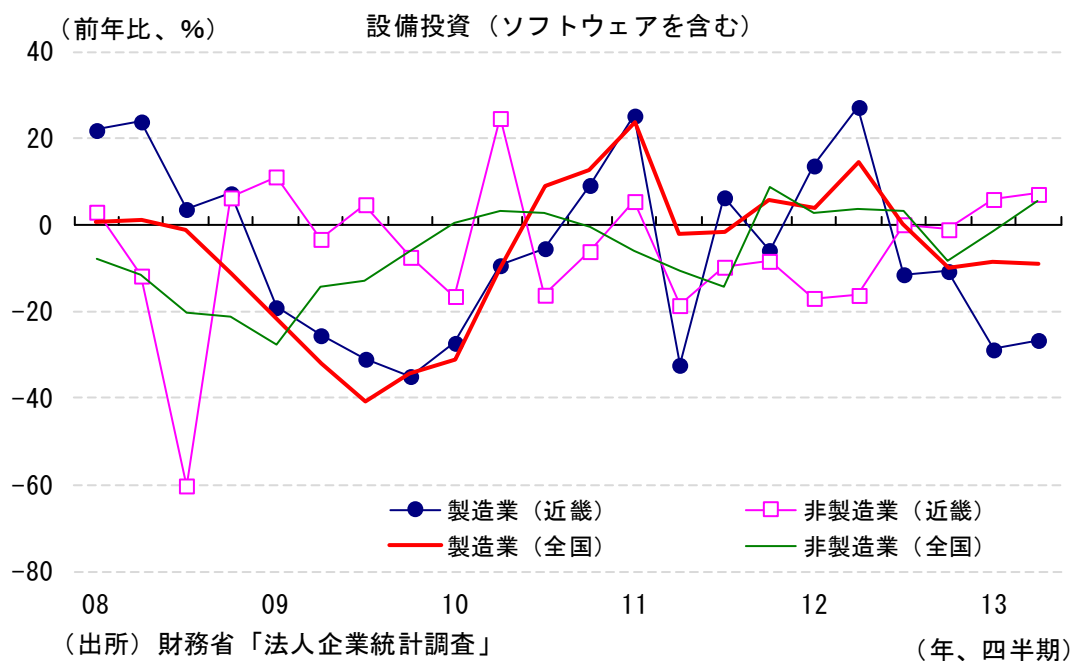
○9月の近畿圏の住宅着工戸数は、前年比＋35.2%の13,606戸となり2ヶ月ぶりに増加した。内訳をみると、特にマンションが前年比で倍増と大幅に増加した。季調済戸数は年率16.8万戸と前月比で33.0%の増加となった。金利先高観や来年の消費税率引き上げが着工増に寄与しているため、今後も、振れを伴いながらも均してみると緩やかな増加が見込まれよう。



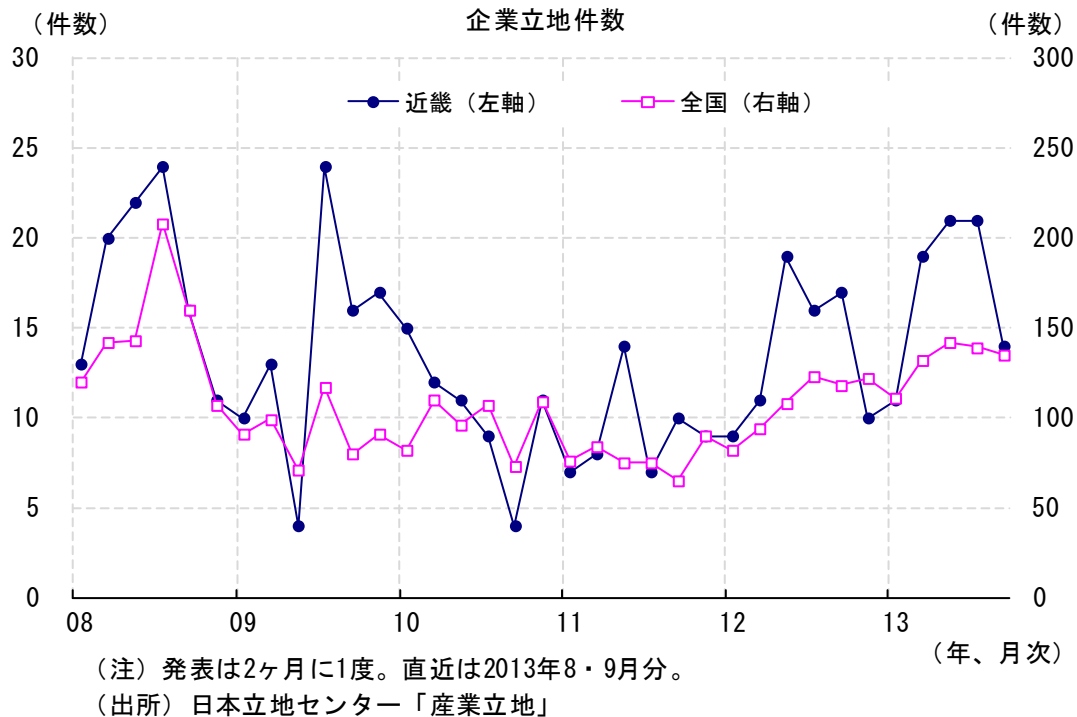
(出所) 国土交通省「建設着工統計」

7. 設備投資 ～減少している

○2013年4～6月期の関西の大企業の設備投資（ソフトウェアを含む）は前年比－10.0%と4四半期連続で減少した。非製造業は同＋7.2%と2四半期連続で増加したが、製造業は同－26.5%と4四半期連続で減少した。日銀短観9月調査では、13年度は製造業で同＋4.3%、非製造業で同＋6.1%の計画となっており、先行きについては持ち直しが見込まれる。

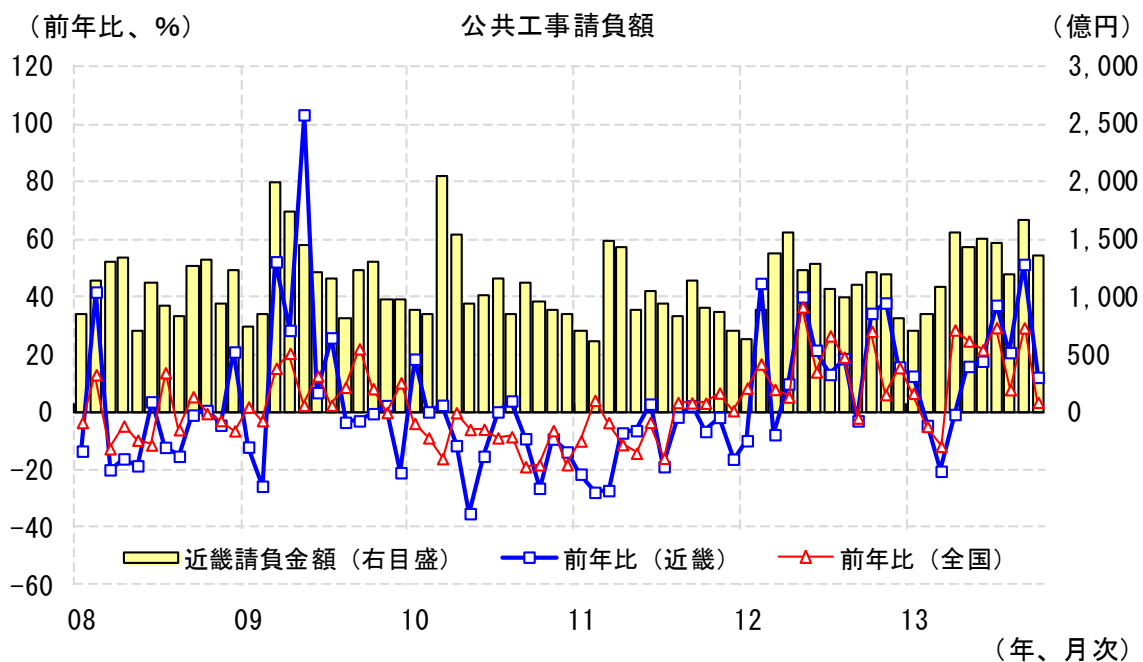


(出所) 日本銀行大阪支店「企業短期経済観測調査（近畿地区）」



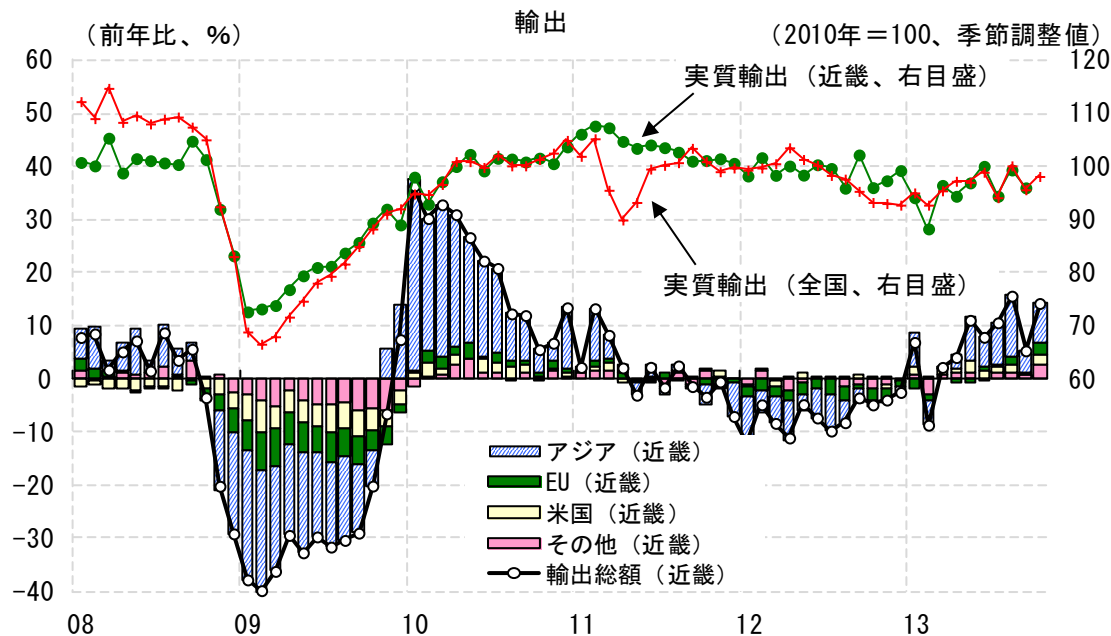
8. 公共投資 ～増加している

○10月の近畿地区の公共工事請負額は、前年比+12.2%と6ヶ月連続で増加した。都道府県別では京都を除く1府4県で増加、発注者別でみると、国、地方公社、その他は減少したが、独立行政法人、都道府県、市区町村で増加した。今後も、引き続き12年度補正予算による投資の増加が見込まれるため、増加基調での推移が見込まれる。



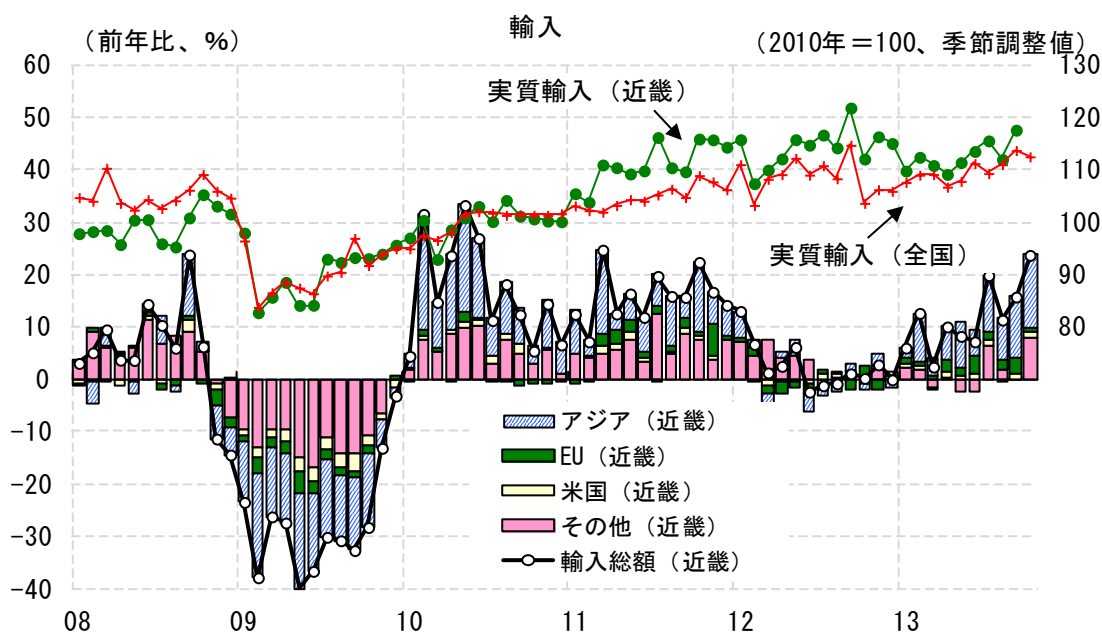
9. 輸出入 ～輸出、輸入ともに持ち直しの動き

○9月の近畿地区の実質輸出は前月比－3.4%と2ヶ月ぶりに減少した。また、10月の輸出額は前年比＋14.3%の1兆2,847億円と8ヶ月連続で増加した。地域別ではアジア向け輸出の伸びなどが増加に寄与した。品目別では金属加工機械、ポンプ及び遠心分離機などが減少する一方、鉄鋼、原動機、半導体電子部品などが増加した。今後は、海外経済の緩やかな回復が続く中、持ち直しを見込む。



（出所）大阪税関「近畿圏貿易概況」、日本銀行大阪支店「実質輸出入」

○9月の近畿地区の実質輸入は前月比＋5.0%と2ヶ月ぶりに増加した。また、10月の輸入額は前年比＋23.7%の1兆3,950億円と10ヶ月連続で増加した。地域別ではアジア向けなどで増加した。品目別では石炭、有機化合物などが減少する一方、原油及び粗油、天然ガス及び製造ガスなどが増加した。今後は、実質ベースでの持ち直しが見込まれる。



（出所）大阪税関「近畿圏貿易概況」、日本銀行大阪支店「実質輸出入」

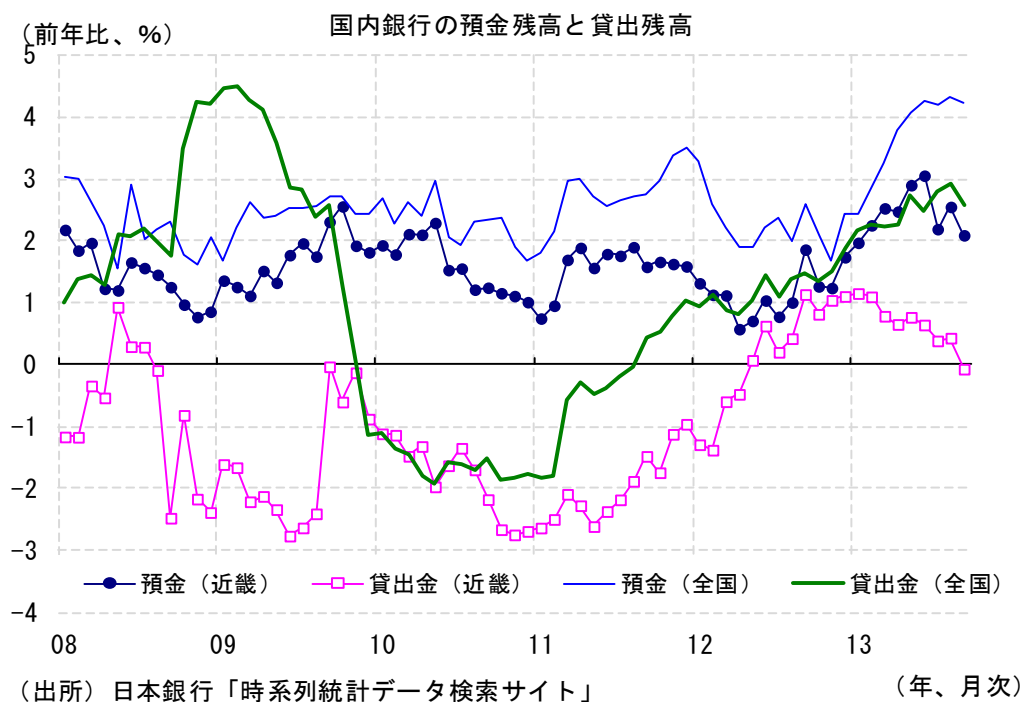
10. 物価 ～消費者物価は緩やかに上昇

○近畿圏の消費者物価は緩やかに上昇している。9月は、総合で前年比+1.2%と4ヶ月連続で上昇し、生鮮食品を除く総合で同+0.7%と5ヶ月連続で上昇した。一方、食料・エネルギーを除く総合では同-0.1%と小幅ながら下落が続いた。川上での物価上昇圧力が続いており、家計の雇用所得環境も一部持ち直しの動きがみられることから、川下でも物価は緩やかに上昇してきている。



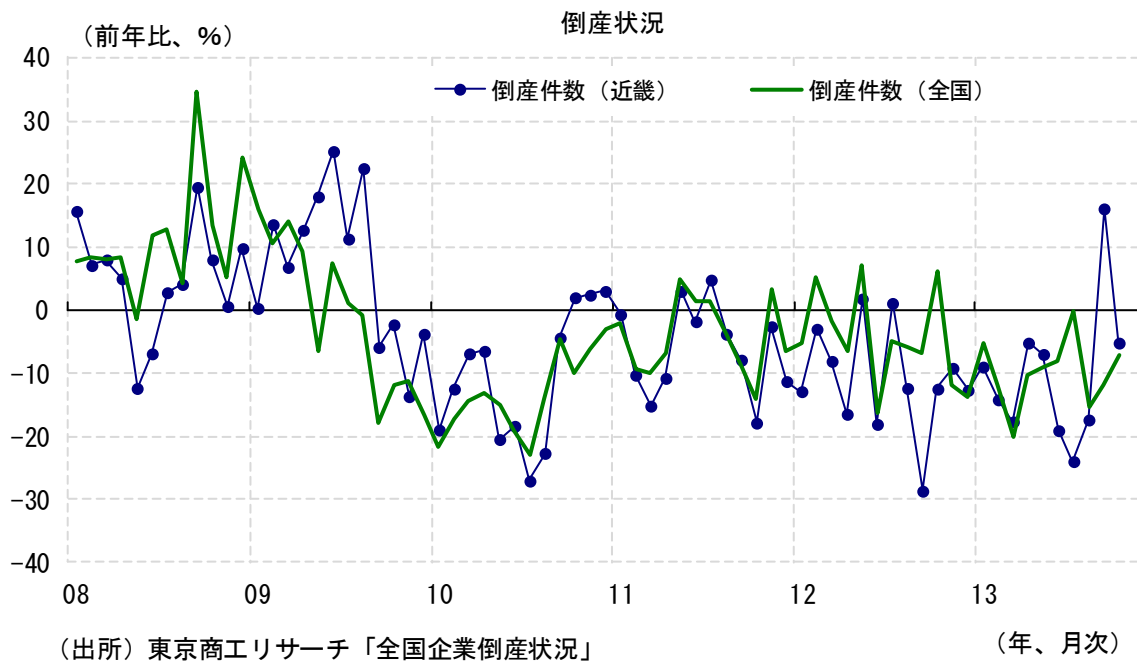
11. 金融 ～預金は増加、貸出は減少

○9月の近畿地区の預金残高（国内銀行ベース）は、前年比+2.1%の104兆円となった。定期性預金は前年比で減少が続いているが、要求払預金が増加している。一方、近畿地区の9月の貸出残高（国内銀行ベース）は、同-0.1%の58.9兆円と17ヶ月ぶりに減少した。法人向け需要は弱いものの住宅ローンの増加が続いており、信用金庫を加えたベースでみると前年比+0.1%と小幅増加となった。



12. 倒産 ～倒産件数、負債総額ともに減少

○10月の近畿地区の倒産件数は、前年比－5.2%の239件と2ヶ月ぶりに減少した。近畿地区の倒産件数の水準は依然低めで推移している。県別でみると、京都、大阪は前年比で増加したが、滋賀、兵庫、奈良、和歌山で減少した。また、倒産企業の負債総額は、同－15.8%の296億円となり3ヶ月ぶりに減少した。



【全国及び東海地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗	☁	↗	輸出	全国	→	☁	↗
	東海	→	☁	→		東海	↗	☁	↗
	関西	↗	☁☔	↗		関西	→	☁☔	↗
個人消費	全国	↗	☁	↗	輸入	全国	↗	☁	↗
	東海	↗	☁	↗		東海	→	☁	→
	関西	↗	☁	↗		関西	↗	☁	↗
住宅投資	全国	↗	☀	→	生産	全国	↗	☁	↗
	東海	↗	☁☀	→		東海	→	☁☀	→
	関西	↗	☁☀	↗		関西	→	☁☔	↗
設備投資	全国	↗	☁	↗	雇用	全国	↗	☁	↗
	東海	→	☁	→		東海	↗	☁	→
	関西	↘	☁☔	↗		関西	↗	☁	↗
公共投資	全国	↗	☀	↗	賃金	全国	→	☔	→
	東海	↗	☁	→		東海	↗	☁☔	↗
	関西	↗	☁	↗		関西	↘	☔	→



: 晴れ



: 薄日



: 曇り



: 小雨



: 雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感（改善、横ばい、悪化）を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
 2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
 3. 全国は9月3日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		10月のコメント	11月のコメント
1. 景気全般	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しが一服している	持ち直しが一服している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
2. 生産	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
	関西	緩やかに持ち直している	持ち直しが一服している
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移	緩やかに持ち直している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
4. 賃金	全国	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	緩やかに減少している	緩やかに減少している
5. 個人消費	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
6. 住宅投資	全国	増加ペースは緩やか	増加ペースは緩やか
	東海	持ち直している	持ち直している
	関西	緩やかな増加傾向にある	緩やかな増加傾向にある
7. 設備投資	全国	緩やかに増加している	緩やかに増加している
	東海	増加が一服している	増加が一服している
	関西	減少している	減少している
8. 公共投資	全国	増加している	増加している
	東海	増加基調で推移	増加基調で推移
	関西	増加している	増加している
9. 輸出入	全国	輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい	輸出は持ち直しが一服、輸入は増加している
	東海	輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい	輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい
	関西	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい	輸出、輸入ともに持ち直しの動き
10. 物価	全国	国内企業物価は上昇、消費者物価は緩やかに上昇	国内企業物価は上昇、消費者物価は緩やかに上昇
	東海	消費者物価は緩やかに上昇	消費者物価は緩やかに上昇
	関西	消費者物価は緩やかに上昇	消費者物価は緩やかに上昇
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金は増加、貸出は減少
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数は増加、負債総額は減少
	関西	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに減少

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目（11. 金融、12. 倒産を除く）

「グラフで見る関西経済」の見方

【今月の景気判断】

○レポート発表時における景気判断。**【今月の景気予報】**における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

○3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

○現況・・・・・・各項目の現在の「水準」を①晴れ、②薄日、③曇り、④小雨、⑤雨の5段階に分類。

○～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

（注）

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が①改善、③悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

○各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

○全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

○右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

○景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

○当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

○発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び東海地区との比較】

○【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と東海地区（グラフで見る東海経済）の判断と、一覧表で比較。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。